

## 『東海道四谷怪談』

塩冶家の浪人民谷伊右衛門は、妻お岩を裏切り高家に仕える伊藤喜兵衛の孫娘お梅との縁談を承諾、お岩は喜兵衛の策略によって顔が醜く変化する毒薬を飲まされ夫を恨んで憤死します。伊右衛門はお岩の死の咎を使用人の小仏小平になすりつけて殺害、ふたりの死骸を戸板に打ち付けて神田川に流しますが、その晩、祟りによって誤って新妻お梅と喜兵衛を殺めてしまいます。この事件から数日後、深川十万坪（現、東京都江東区北砂）の隠亡堀で釣りをする伊右衛門の前に再び怪異が…。

伊右 よしなき<sup>1</sup> 秋山うせた斗<sup>2</sup>、口ふさぎに大事の<sup>3</sup>墨付<sup>3</sup>、あいつに渡<sup>4</sup>て

此身の<sup>4</sup>旧悪。ハテ、いらざる所へうせずとよいに<sup>5</sup>。〇。

<sup>6</sup>ト思入、

南無三<sup>6</sup>、暮れたナ。どりや、さを、あげよふか〇。

<sup>7</sup>トす<sup>7</sup>ごき合方<sup>7</sup>、薄<sup>7</sup>どろく、。時のかね。此時、<sup>10</sup>両窓

おろし、くらくなる。伊右衛門、さおを上げてしまふ。此時、<sup>11</sup>こもをかけし<sup>12</sup>杉戸流<sup>12</sup>よる。伊右衛門、思わず引よせて、

覚<sup>13</sup>の杉戸。

ト引よせて一方をとる。爰<sup>14</sup>に、おいわの死がい、肉脱せしこしらへ。此時薄<sup>15</sup>どろくにて、両眼見開いて、鼠のくわへし<sup>16</sup>最前の守をもつてゐる。伊右衛門、思入有、

お岩く。コレ、女<sup>17</sup>ぼう、ゆるしてくれろ。往生<sup>18</sup>しろよ。

ト此時<sup>19</sup>お岩、伊右衛門をきつと見つめ、守り袋をさしつけ、いわ うらめしい伊右衛門どの。田みや、伊藤の血筋をたやさん。ト守をさし出し、見つめるゆへ、こわけだつて、手早<sup>20</sup>く、

だんのむしろをかけて、

伊右 まだうかまぬナ。南無阿みだ仏く。このま、川へつき出したら、とびや、からすの〇。<sup>16</sup>こぶが尽たら仏になれ。

ト戸板をかへしみる。うしろには藻をかぶりある小平の死がい。伊右衛門、見定んとする。薄<sup>17</sup>どろく<sup>17</sup>に成<sup>17</sup>、かほにかかりし藻は、ばらばらと落<sup>18</sup>て、小平のかほ。両眼見開<sup>19</sup>、片手をさし出し、

小平 旦那さま。<sup>18</sup>薬を下され。

1 「伊右」：伊右衛門のセリフであることを示し、「頭書き」と言う。底本の文庫本では通読の便のための処置として役名が記されているが、歌舞伎の台本では近代以降の戯曲と異なり、役者名で表記されるのが通例で、原本では初演時に伊右衛門を演じた七代目市川團十郎の名が記されている。

2 「秋山」：秋山長兵衛。伊右衛門の悪友で掲出部の直前に登場。

3 「墨付」：身元保証の書き付け。高師直（史実の元禄赤穂事件では吉良上野介に該当する人物）の直筆で、伊右衛門の母お熊がもたらってきたものであったが、秋山から訴人すると脅された伊右衛門は口封じのためこれを渡してしまふ。

4 「旧悪」：過去に犯した悪事。

5 「〇」：人物の感情を無言のうちに表情やしぐさで表現する演技のことを「思入れ」と言う。その演技を指示する略記号。

6 「ト」：台本において、役者の演技や演出、装置等の説明を記した部分は、「ト」から書き出すので「ト書き」と言う。

7 「すごき合方」：三味線の演奏の一種で凄惨な気分を演出する。歌舞伎におけるBGMは、江戸後期より舞台向かって左側（下手）の黒御簾の中で演奏され、今日では黒御簾音楽と称する。

8 「どろく」：大太鼓の演奏の一種で怪奇現象が起こる際に用いる。「薄どろ」は長撥の先で細かく刻んで打つ打ち方で、他に大きく打つ「大どろ」などがある。

9 「時のかね」：黒御簾内に吊された釣鐘（本釣）ともを打つ。当時の人々は寺などの鐘の音で時刻を知ったがそれを模したもので、ここでは淋しい雰囲気演出。

10 「両窓おろし」：電気照明のない江戸時代では、劇場内を暗くする際に小屋の窓を閉めた。

11 「こも（菰）」：イネ科の真菰を編んで作った敷物。筵の一種。

12 「杉戸」：お岩、小平の死骸が画面に打ち付けられた戸板。

13 「最前の守」：死んだお梅のお守り。母のお弓が形見としていたが、掲出部より前に鼠が持ち去るという怪異が起こっていた。

14 「お岩」：初演時には三代目尾上菊五郎が演じた。